

# 12課

6月22日

## 地球最後の諸事件



安息日午後 6月15日

### 暗唱聖句

真理を得よ、知恵も諭しも分別も手放すな。(箴言 23 : 23、新共同訳)

真理を買え、これを売ってはならない、知恵と教訓と悟りをも買え。(箴言 23 : 23、口語訳)

### 今週の聖句

ヨハネ 8 : 32、エゼキエル 20 : 12、20、黙示録 7 : 1、2、黙示録 14 : 1、  
ヨエル 2 : 21~24、ホセア 6 : 3、ヤコブ 5 : 7、8、黙示録 18 : 1~4

### 今週のテーマ

あなたの10代の娘が夏休みで大学から帰省するとしましょう。彼女が到着するのを待ちながら、あなたは心配そうに天気予報を見ています。天候が急速に悪化するにつれ、あなたは不安になります。黒雲が広がってきました。風が激しく吹き荒れ、土砂降りの雨が降り始めます。木々が吹き飛ばされ、間もなく、家までの主要な道路が通行できなくなります。そんなとき、近所の人から、脇道は通行可能だと聞きました。車は倒れた木を避けながら走行することができます。通信は困難ですが、あなたは娘にメールを送ることができ、どうすれば安全に帰宅できるかを丁寧に説明しました。

イエスは何よりも、私たちが人生の嵐を乗り越え、家に帰れるようにしてあげたいと願っておられます。エレン・ホワイトは、「嵐が容赦なく猛烈な勢いでやって来る。私たちはそれに遭遇する準備ができていだろうか」(『教会への証』第8巻315ページ、英文)と書いています。キリストの生涯、死、復活、天の聖所での奉仕の目的は、確実に私たちが家に帰れるようにすることです。ダニエル書と黙示録の預言のメッセージは、特に終末時代の人々に対する神の指示であり、私たちが人生の嵐を乗り越え、いつの日か、愛情深い救い主の温かい抱擁を感じられるようにするのを助けるためのものです。

今週の研究の目的は、終末の諸事件について預言の御言葉が何と言っているかを明らかにし、地球最後の闘いを乗り越えて、私たちが帰還させようとするキリストの力を新たに発見することです。

**問1** 箴言 23:23、ヨハネ 8:32、17:17 を読んでください。これらの聖句には、どんな共通点がありますか。

いつの時代も、大争闘は真理と誤謬<sup>ごびょう</sup>の戦いでした。サタンはうそつきであり、うその父です（ヨハ8:44）。イエスはすべての真理の創始者です。彼はこう宣言されました。「わたしは道であり、真理であり、命である」（同14:6）。私たちがサタンの惑わしから解放する真理は、神の言葉の中にあります。聖書はサタンの戦略を暴き、神の計画を明らかにします。聖書は私たちの歩みを照らす灯です（詩編119:105）。詩編記者は、「御言葉が開かれると光が射出で／無知な者にも理解を与えます」（同119:130）と明言し、さらに、「あなたのみ言葉の全体は真理で」（同119:160、口語訳）と付け加えています。

**問2** IIペトロ 1:16～21 を読んでください。預言に関して、使徒はどんな保証を与えていますか。神の預言の言葉の重要性を示すために、彼はどんなたとえを用いていますか。

私たちは、「巧みな作り話」を用いてきたわけではありません。神の言葉の預言は、前途を照らし、真理と誤謬を区別する助けとなります。聖書がなければ、私たちは人間の気まぐれな意見にさらされ、簡単にだまされてしまうでしょう。「神の民には、偽りの教師の感化と暗黒の霊の欺瞞<sup>まごまご</sup>的な力に対する防壁として、聖書がさし示されている。サタンは、人が聖書の知識を得るのを妨げるためにあらゆる手段を用いる。なぜなら、聖書の明白な言葉は彼の欺瞞を暴露するからである。……まもなく最後の大きいなる欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。反キリストがわれわれの目の前で驚くべき業を行うのである。偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。……聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の争闘に耐え抜くことはできない。わたしは人に従うより神に従うべきかという鋭い質問が、1人ひとりに臨むであろう。その決定の時は今日の前に迫っている。われわれの足は、変わることはない神のみ言葉という岩の上に、しっかり立っているだろうか。われわれは、神の戒めとイエスを信じる信仰をとりでとして、堅く立つ用意ができていだろうか」（『希望への光』1887、1888ページ『各時代の争闘』第37章）。

礼拝をめぐるやがて訪れる危機において、神の忠実な民はこの世の圧力に屈しません（黙14：12）。彼らは聖霊によって証印を受けており（エペ4：30、口語訳）、動かされません。古代において、証印は公文書の真正性を証明するものでした。それは独特で個別化されたしるしでした。最後の闘いは、神の律法に明らかにされている礼拝と神の権威を中心とするものなので、神の証印が神の律法の中に埋め込まれていると予想されます（イザ8：16と比較）。

**問3 出エジプト記20：8～11を読んでください。安息日の戒めには、証印のどんな要素が含まれていますか。**

ここに本物の証印の三つの要素があります。(1) 証印の持ち主の名前、「あなたの神、主」。(2) 彼の称号、「造（つた）」者、つまり創造主。(3) 彼の統治領域、「天と地と海とそこにあるすべてのもの」。証印は、聖書において「印」（ロマ4：11）と呼ばれることもあります。この二つの言葉は、置き換え可能です。安息日は、神の律法の中心にある神の印または証印として、礼拝をめぐる最後の闘いの中心になります（エゼ20：12、20、黙12：17）。

**問4 黙示録7：1～3、14：1を13：16、17と比較してください。神の刻印と獣の刻印は、どこに押されますか。なぜ違いがあると思いますか。**

神の刻印は、額に押されています。額は知性の象徴であり、意識的な決断をあらわします。

獣の刻印は、額か手に押されています。それは、人々が知的に確信し、自らの選択でサタンのうそを受け入れるか、あるいは、殺されるのを避けるために偽りの礼拝に従うことを示しています。

悪魔は、神に忠実である者を憎みます。大争闘が山場を迎えるのは、竜（サタン）が「神の掟おきてを守り、イエスに対する信仰を守り続ける」（黙14：12）残りの者たちに戦いを仕掛けるときです。彼らは、キリストに対する揺るぎない忠誠心を持っています。

最後の危機が到来したときに備えるためには、なぜ主に対する日々の忠実さが鍵となるのでしょうか。

終末時代には、礼拝をめぐる大争闘が劇的な形で展開されます。私たちは、創造主を拝むのか、それとも獣とその像を拝むのでしょうか。中立の立場はありません。黙示録14章の第一の天使は、「天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」と人々に促しています（黙14：7）。天の訴えをさらに支持するように、第三の天使は、獣を拝むことの悲惨な結果をこう明らかにしています。「その者自身も、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことにな……る」（同14：10）。対照的に、創造主を拝む者は、「神の掟おきてを守り、イエスに対する信仰を守り続ける」と描かれています（同14：12）。

天地創造が真の礼拝の基礎です（黙4：11）。神は、「イエス・キリストを通して万物を創造された」（エフェ3：9、英訳聖書）ので、サタンは創造主を憎み、この世の権力を通して創造の記念である安息日を変えようとしてきました（ダニ7：25）。神の律法をめぐるやがて訪れる闘いは、権威に焦点を合わせています。もしサタンが安息日礼拝を根絶することができれば、彼は自分の権威が神の権威よりも偉大だと宣言するでしょう。これを成すために、サタンは偽りの安息日を受け入れるように全世界の人々を説得、あるいは強制しようとしています。

現時点で、このようなことが起きるとは到底思えないとしても、先に述べたように、世界は劇的に変化しています。新型コロナウイルス感染症の危機は、私たちの世界が一夜にして別の場所に変わりうることを示しました。獣の刻印をもたらず詳細はわかりませんが、さほど想像に難くありません。世界は非常に不安定であり、今そこにある驚くべき技術によって、聖書が警告していることは、私たちが今想像しているよりも素早く実現する可能性があります。

**問5 黙示録13：13～17を読んでください。獣の刻印を押されなかった者には、具体的にどんな罰が課されるのでしょうか。**

獣とその像に従うのではなく、キリストに忠実な者は、死の脅威だけでなく、経済的罰にも直面するでしょう。人類は、今も昔も変わらず、墮落し、権力に貪欲で、暴力的です。終末の諸事件がどのように繰り広げられるかについて、私たちはまだ正確にはわかりませんが、終末時代の迫害を想像することは、それほど難しくありません。まったく別の文脈で書かれたとはいえ、ヨハネによる福音書の次の言葉がすべてを物語っています。ヨハネはイエスに関して、「人間についてだれからも証ししてもらわなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである」（ヨハ2：25）と書いています。

問6 ヨエル2：21～24と使徒言行録2：1～4、41～47を読んでもください。1世紀にどんな預言が成就しましたか。それはどんな影響を与えましたか。

五旬祭における聖霊の注ぎは、キリスト教会を力強く立ち上げ、1日で3000人が改宗しました。使徒言行録は、人を変える神の恵みの奇跡を次から次へと記録しています。「二人の語った言葉を聞いて信じた人は多く、男の数が五人ほどになった」（使徒4：4）。祈るために集まった信者は、わずか120名でしたが、祈りは劇的な変化をもたらしました。教会は急速に数千人の信者を増やしました。「祭司も大勢この信仰に入った」（同6：7）。多くの祭司さえイエスに従う者になったのです。

弟子たちがエルサレムで激しく迫害されたとき、彼らは「福音を告げ知らせながら巡り歩（き）」（同8：4）、ユダヤ、サマリア、ガリラヤの全地方に教会が建てられました（同9：31参照）。使徒パウロは回心後、地中海世界全域にキリストを宣べ伝えました。テサロニケでは、福音に反対する一部のユダヤ人が驚くべき発言をしています。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています」（同17：6）。初代教会が何を成し遂げたかを示す何と力強い証でしょう。聖霊の力によって、弟子たちは比較的短期間で当時知られていた世界に到達しました。ヨエルの先の雨の預言は、五旬祭のときに成就しましたが、後の雨は、地球の最後の収穫を準備するために、さらに大きな力を伴って降るでしょう。

問7 ゼカリヤ4：6、10：1、ホセア6：3、ヤコブ5：7、8を読んでもください。地上における神の働きは、どのように終わりますか。

「前の」雨と「後の」雨という言葉は、イスラエルの収穫サイクルから取られています。前の雨は、種を発芽させるために秋に降り、後の雨は、収穫物を成熟させるために春に降りました。これは福音宣布のための聖霊の働きを説明しています。「福音の開始にあたって、貴重な種を発芽させるために、聖霊が注がれて『前の雨』が与えられたように、その終わりにおいて、収穫を実らせるために、『後の雨』が与えられるのである」（『希望への光』1896、1897ページ、『各時代の争闘』第38章）。

問8 黙示録 18:1~4、ハバクク 2:14、マタイ 24:14 を読んでください。これらの聖句は、地上における神の働きがどのように終わると述べていますか。

バビロンが倒れたと告げる天使は、「大きな権威」を持っています。黙示録 14章の天使と同様、この天使は人間の使者をあらわしています。この天使は、神の栄光を完全にあらわし、全地を照らします。新約聖書で「権威」や「権力」に相当するギリシア語は、「エクスーシア」です。それはしばしば、陰府の支配や権威に対するキリストの勝利を指しています。マタイによる福音書の中で、イエスは弟子たちの派遣に合わせてこの言葉を用いられました。マタイ 10:1 でイエスは、陰府の支配や権威に対する権能を弟子たちに与え、善と悪の戦いで勝利するための神の力と共に彼らを送り出されました。さらにマタイ 28章では、「行って、すべての民をわたしの弟子に（する）」ために、「天と地の一切の権能」（マタ 28:18、19）と共に再び彼らを派遣しておられます。

聖霊の力に満たされ、その生涯と死において陰府の支配と権力に勝利された生けるキリストの権能と共に出て行った新約聖書の教会は、神の栄光で地上を照らしました。そして数年のうちに、弟子たちは当時知られていた世界に福音を宣べ伝えたのです（コロ 1:23）。

終末時代に、聖霊は前例のない力で注がれ、福音は地の果てまで急速に広まります。1日で数千人が改宗し、神の恵みと真理が地球全体に影響を与えるでしょう。このようにして、世界は警告され、福音と福音がもたらす希望が世界中に広まります。

「福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあたって秋の雨（前の雨）となって成就した預言は、その終局において、春の雨（後の雨）となって再び成就するのである。……神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行われ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う」（『希望への光』1897ページ、『各時代の争闘』第38章）。

聖霊の力強い注ぎ、後の雨、そして大いなる叫びを、何が妨げているのでしょうか。個人としての私たちの役割がどれほど小さくても、心を開いて聖霊の注ぎを受け入れるという点で、私たちはどんな役割を果たすことができますか。

参考資料として、『各時代の大争闘』第38章「世界への最後の警告」を読んでください。

アドベンチストの先駆者たちは、早くも1851年までに、黙示録13:11~17の第二の獣をアメリカ合衆国と見なしました。しかし当時は、米国がどのようにして全世界に先の獣を拝ませることができるのか、理解するのは難しかったに違いありません(黙13:12)。1880年代になっても、米国の全海軍は、老朽化したわずか48隻の艦船で構成されているにすぎませんでした。

しかし冷戦終結以降、軍事的に米国に匹敵する国はありません。そして、アメリカ人はすばらしい自由を享受してきましたが、時代が厳しくなるにつれ、その自由が踏みにじられたり、完全に損なわれたりするのを見るのは難しくありません。多くの人が、今でもこのようなことが起きていると信じています。

「これに従わない者はすべて、法律上の刑罰を受ける。そして、ついには、彼らは死刑に値する者であると宣告される。他方、創造主の安息日を守ることを命じる神の律法は、それに対する服従を要求し、その戒めを犯すすべての者に神の怒りを警告する」(『希望への光』1893ページ、『各時代の大争闘』第38章)。

「嵐が迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般受けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らを中傷し、非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」(『希望への光』1895ページ、『各時代の大争闘』第38章)。

### 話し合いのための質問

- 1 やがて訪れる危機において、終末時代の諸事件を理解することは、なぜそれほど重要なのですか。聖書はいかに惑わしからの防壁となるのでしょうか。
- 2 金曜日のエレン・ホワイトの引用文を見てください。アドベンチストと自称する人々とあした一緒にいられるように、きょう、あなたはどんな選択をしていますか。